随想

「笑いあれこれ」

淀師　井出　治

「笑う門には福来たる」私たち庶民が一日一日を楽しく過ごしてゆく、そのエッセンスが表現されている。七福神のエビスさんやホテイさんはいかにも福を連れてきてくれそうな、いでたちだ。なによりもあの笑顔が良い。ふっくらした顔に満面の笑みを浮かべている。これに比肩できるのは、サンタクロースぐらいだろう。

今ではあまり見られないが、「福笑い」などというゲームというか遊びがあって、テレビなどがない時代には、子どもたちの楽しみの一大ツールであった手をたいて、大笑いしながら興じたものだ。

笑うことは精神衛生上もすこぶる有効らしい。顔の表情が豊かになるし、腹の筋肉を刺激するからしい。また眉間のしわが目につくと、「身体の力を抜いて」と注意を受けたりする。カメラの前ではニッコリするのがエチケットである。

こうして、だれでも、いつでもニコニコしていたいのだが、そうもいかないのが現実である。仏教でいう「四苦八苦」は程度の差こそあれ、大方の人が背負っている。生活自体もその厳しさは、一向に改善しない。財布のひもも固く、ニコニコというわけにはいかない現実がある。

私などはいつも「バカ笑い」がしてみたいという願望に取りつかれている。

顔の筋肉がそれこそ、バラバラになってしまうくらいに、抱腹絶倒を地で行ってみたいと。裏を返せばそれだけ笑いの機会が少なくなっているのだろう。

テレビなどで、芸人さんたちが手を変え品を変えて私たち視聴者を笑いに誘おうとしてくれているのがよくわかる。そこでは「バカ笑い」の疑似体験は可能だし、なによりも楽しい。われを忘れていて、ハッとすることもある。

親しい人が「破顔一笑」になったりすると、ああ何かいいことがあったんだなと、こちらもつい微笑み返しをしてしまう。笑いは伝搬するもののようだ。

ところで、笑いも良いものばかりではない。人を不愉快にする笑いもある。

実はこちらの方が問題なのだ。精神衛生上も良くない。

「嘲笑」あざけって、笑い者にすること。例えば国会の予算委員会。野党の質問者に対して首相等が浮かべる笑い。なんとも不気味で、不愉快な笑い。人を人とも思っていない薄ら笑い。「こんな人たちに負けるわけにはいかないのです」？過日の選挙応援演説での首相発言である。私たちはデモにさえ参加できなくなる？これには本当に耳を疑った。さて日本人は序列を重視する国民性を持っていると言われる。儒教の影響だろうか。そういえば隣国中国ではもっと序列を重視する。国家主席にいちばん近くたつ人。誰？といった具合である。

この序列的秩序から生まれる笑いが、上から目線での嘲笑ということになる。

又、された方はたまらない「失笑」。「失笑を買う」などと表現される。おかしさに堪え切れず、ふきだして笑うこと。典型例は場違いな物言いやその場にふさわしくない言動。条件は本人がそれに気づいていないこと。しかし、その場に居合わせた多数派が皆で申し合わせたように、おかしいといって「失笑」するのは、マナー違反なのではないのか。私は失笑した方ではなく、された方を気遣う。本人はいたって本気である場合が多いからだ。

ただ多数派の失笑が許される場合がある。その失笑の対象が少数権力者の失態である場合である。この場合は大いに失笑すればよい。笑いとは本来そういうものであると私は常々思っている。

「苦笑」苦笑いである。苦い思いはある意味否応なくやってくる。思わずしでかしてしまう失敗。そんな自分を「苦笑」が一方で叱責し、他方で慰める。

複雑な笑いである。だから表情からもその笑いの根元を判別することは難しい。

笑う当人も、あまり他人にそれと悟られないようにと気を配りながらの笑いとなる。感情の表出を押し殺しているのである。

そして「爆笑」である。大勢が大声でドッと大笑いすること。寄席などで見られる。大勢いるところでの笑いはこの「爆笑」に尽きる。ある意味最も健康的である。私などは笑いはいつもこうありたいと思っている。腹に一物もっているということがない。ただ最近では寄席以外のところではあまり出会うことがないのは残念である。

お笑いコンビに「爆笑問題」がいる。テレビでレギュラー番組を持つ、今や中堅のコンビである。その太田君は社会問題や政治問題にも鋭い視点を持ち私も興味を持って拝聴している。その太田君が新書版の本を出版した。今日では芸能人が本を出すというのは珍しくないが、「憲法九条を世界遺産に」という。

日本国憲法第九条を世界遺産にするということは憲法九条を大切に守って行くということに他ならない。当時衝撃を受けたのを覚えている。

何故なら、学者や評論家が憲法九条を世界遺産にしましょうなどとはおよそ考え付かないと思うからだ。その発想が素晴らしく、思わず、膝を叩いてしまった。そして納得してしまった。

そのあと、爽やかな笑いが私に訪れた。

曇りのない、他意のない笑いである。

勿論、笑いは「ユーモア」と密接に関連している。ユーモアがあるとは、笑いについて、敏感であり、なお諸状況に対して心と頭が柔軟であることが要求される。

心のフットワークが軽快でなければならないのである。

そこから、健全な皮肉やブラックユーモア的な笑いも生まれてくる。

こうして見てくると、笑いというものにもし権限が必要とされるなら、それこそ私たち一般大衆にあるというべきである。けっして少数の彼らの方にあるのではない。笑いに関してその源は常に私たちのサイドにある。

つまり彼らには本来的に笑うことはできないのである。

「日本高校会議所」設立。来年8月に富士宮で第1回総会を予定

「2017西日本B-1グランプリin明石」の準備委員会に14市町の高校生が参加して設立決める

全国の高校生へ「まちおこし」連携を発信

14市町の高校生が参加して設立を決めた（11月27日。明石市で）

先月25日と26日に兵庫県明石市で開催された「2017西日本B-1グランプリin明石」で、26日には明石商工会議所大ホールで、富士宮高校会議所が「日本高校会議所設立準備委員会」を開いて、プレゼンテーションを行い、全国各地の高校生に連携した「まちおこし」を呼びかける発信を行い、今後の予定を協議した。

「西日本B-1グランプリin明石」に参加したグループの中から長崎県大村市や大分県日田市・佐伯市、徳島県徳島市・鳴門市、岩手県北上市、愛媛県今治市、茨城県ひたちなか市、兵庫県明石市、三重県亀山市、静岡の西伊豆町など全国の14市町の40人余が参加した準備委員会では、中村真緒富士宮高校会議所会頭が挨拶で高校会議所を設立して全国の高校生がまちづくりに連携を図りたいとする思いとこれまでの設立準備委員会の経過を述べた。

参加各高校の代表が自己紹介の挨拶を行い、富士宮高校会議所の活動事例発表に続いて、富士宮高校会議所の初代会頭飯島大さんが誕生からの高校会議所に寄せる思いを挨拶で語り、質疑応答で意見交換を行って初代会頭に中村真緒さん（富士宮高校会議所会頭、準備委員会代表）を選んで、日本高校会議所を設立し、第1回総会を来年8月初めに富士宮市で開くことを決めた。

さらに今後の会頭は総会時に全国民を巻き込んだ総選挙で決めることや来年の総会までに事務局を富士宮高校会議所において準備を進めることなどを決めて、規約や会則を総会までにまとめることを確認した。

初代会頭に選ばれた中村真緒富士宮高校会議所会頭やスタッフが抱負を語り（11月29日富士宮高校会議所）

日本高校会議所の初代会頭に選ばれた中村真緒さんは11月29日に富士宮市西町の富士宮高校会議所事務局で記者会見を行い、「多くの方々の支援で全国組織の日本高校会議所設立の夢がかなった。来年の富士宮での総会までに準備をしっかり進めていきたい」と抱負を語った。

上野地区社協がチャリティーバザー収益から寄付

上野地区社協の藁科会長・小林企画委員長らが市社協を訪れチャリティーバザーの収益金を寄付

上野地区社会福祉協議会（藁科正会長、小林秀美企画委員長）は1日、富士宮市社会福祉協議会に先月23日に実施したチャリティーバザーの収益金から3万円を寄付した。

上野地区社協の藁科会長・小林企画委員長ら役員が市社協を訪れ、清会長に「地域福祉に役立ててください」と寄付金を手渡した。

文芸

つうじんの会作品

所在なき一句置き去る冬の蝶　山崎　ミエ
来し方を句に振返る日の秋思　渚　あかり
決めごとを頑固に守る蟬こぶし　芝　けんじ
ヨットとも見ゆ白雲の上の月　久保田直江
粋の雲富士に小春の三度笠　松　木咲
しぐるるや瞳憂ひの阿修羅仏　高木真砂代
恙なき日々のいとなみ柿日和　落合百合香
鳥威とうの昔に田は団地　高柳　富枝
富士山の白く装ふ干大根　水原　東
電線に鳩ふくみ鳴く神の留守　久保よしえ
炉開の茶事に招かれ友集ふ　加藤　衣美
何もせず一と日の早き神の留守　杉　まこと
八十路をば一歩踏出す鰯雲　和田美矢子
しぐるるや蜘蛛の巣に張る雨の粒　榑松　恭子
紅葉忌渚に拾ふ虚貝　吉井　仁
小春日や四五本届く掻き菜苗　丘　くるみ
一杭の櫛からみつく木の葉髪　正岡　諾
帯雲の帯をきりりと小春富士　鈴木　正夫